

二〇一〇年九月 会報
サンディエゴ仏教会

信心正因

かく せかい ねが 核なき世界を願う

住職 向嶋 諦史

先月、現地の日系人を中心とした市民団体が、広島と長崎に原爆が投下された六日と九日に梵鐘が安置してあるシエルターアイランドに集まって核廃絶を願う平和集会を開きました。この式典には、サンディエゴ市長の代理人とコロナド市長が参列し、お二方より核なき世界の実現に向けて力強いメッセージを頂きました。更には、広島と長崎市長から式典に届けられた平和宣言が紹介され、その後サンディエゴ市と姉妹都市である横浜市中から寄贈された友好の鐘を原爆の投下された時間に合わせて、広島原爆の午前九時十五分、長崎原爆の午前十一時二分に被爆者の方々が一同に鳴らして、荘厳な鐘の音を聞きながら参列者全員が一分間の黙祷を致しました。

また、当仏教会に於いても、八月五日に、数名の関係者が集まって広島原爆投下の現地時間に合わせて、午後四時十五分に原爆で犠牲になられた方々へ核廃絶を誓う黙祷を捧げました。その後、参拝者と共に平和を願うメッセージを思い思いに梵鐘に書き記し、コロナド市長出席の下、コ

ロナド市の市営プールで灯籠流しを致しました。暗闇の水面に浮かぶ灯籠の明かりを眺めながら、参列者の一人ひとりが未来の子供達核のない世界、真の平和実現を願われたことと思います。

ところで、この平和集会が開かれる数週間前に、市民団体の代表者よりサンディエゴで初となるこの原爆式典に向けて私からお祝いの挨拶文を頂戴したいとの依頼がありましたので、喜んで承諾致しました。そこで今日は、その時に送らせて頂いた核廃絶に向けての私のメッセージを紹介したいと思います。

今年で広島と長崎に原子爆弾を投下されてから六十五年目を迎えました。この大切な節目の日を迎えるに当たり、今一度、私達人間の歴史を振り返り、まずと平和を願う一方で、世界では争いの絶える日は一日としてありませんでした。これまでの戦争で、幾千万の人々が尊い生命を失い、親を亡くし、子を奪われ、気も狂わんばかりの悲嘆にくれた人は枚挙にいとまがありません。

また、仏教徒に限らず、「殺すなかれ」という教えに背いて、聖戦の名の下に、武器を取って戦地に赴かなければならなかった方々の心の苦しみには想像を絶するものがあります。

今日の私達の快適な暮らしは、先の大戦で亡くなった多くの方々の生命の犠牲の上にもたらされているといふことを今一度思い起して、感謝の気持ちと共に真の平和の実現に努めていかなければなりません。

今、世界の多くは、戦争の本当の恐ろしさを知らない世代が多数を占め、生命を軽視する問題も増えています。

ます。この度の式典を通して、戦争で無残にも尊い生命を絶たれた方々の為にも、残された私達が力の限り戦争の悲惨さとその罪の深さを訴えていくことが何よりも大切なことではないでしょうか。

幸いに私達は、この世に人としての生を受けました。仏教ではこの世に人として生まれてくるとは大変難しいことであり、大変有難いことであると説いています。有名な話ですが、その昔、仏教の開祖である釈尊が、ガンジス川の畔で、一面に広がる砂浜からわずかな砂を掌で掬って弟子に示され、こう説かれたといいます。「この河原に広がる砂の数ほど、この世には無数の生命が存在する。その中で人として生まれてくることの出来る者は私の掌にあるの砂ほどだけだ。」

今、私達は生まれ難い人としての生命を頂き生かされています。この真実に気付くとき、私達はこの生命を全うして生きなければなりません。互いの存在を認め合い、愛し合い、支え合っていくこそが人としての真の生き方なのです。この地球上で互いの人生を分かち合っていく、尊さに気付くことが何よりも大切なのです。

しかし、先ほど述べましたように、人類は長年に渡り戦争の歴史を繰り返してきました。戦争の原因は、人間のさまざまな欲望や恐怖心から生まれてきます。人類は互いに自己を正当化し、他を排除し、挙句に生命を奪う戦争を繰り返してきました。そして、今まさに、人類が作り出した核兵器によって、この母なる地球をも破壊の危機に追いやるようになっています。

先日、私はある本を読んでいて次の言葉に出会い、思わず肅然と襟を正したことでした。それは、「地球を一つの生き物に例えると、人間は地球にとって癌細胞であ

「という言葉です。大変厳しい言葉であると思いますが、事実人は私利私欲の爲に他の生命を奪うだけでなく、環境を破壊し、地球そのものを破壊に追いやるつています。地球にとって、また全ての生物にとって、私達人類が細胞であるというの事実だ、思わず頷かざるをえないと同時に、人としての恥ずかしい思いが込み上げてまいりました。

仏教には恩に報いるという教えがあります。大自然の恵みの中で、多くの生命の犠牲の上に私達の生命は成り立っています。この尊い恩に私達人類は人生をかけて報いなければなりません。恩に報いる生き方とは、互いの存在を認め合い、敬い合い、支え合って生きるとではないでしょうか。

人には他の動物にはない優しさや相手を労わる特別な心があります。相手の立場に立つて考えることが出来る素晴らしい力があります。また、共に悲しみ、共に泣き、共に喜び、共に笑つてこの出来る美しい心を持っています。そして何よりも人間は、反省するといふ尊い心を持っています。

私達人類は遠い過去から様々な過ちを繰り返してきました。しかし、その犯した過ちをどう受け止め、どう修正し、どう償っていくかがとても大切なことです。それには大変な勇氣と根気が必要になってきます。人間一人ひとりの力は大変弱いものですが、その弱さを支え合い、補い、助け合って生きることが本当の人間の素晴らしさだと私は信じています。

核兵器を廃絶して、世界の平和を確立し、地球環境を整えていくことは、正に私達人類の全ての生物に対する緊急の責務であると思えます。

人類と一口に言っても、性別、性格、国籍、文化、能力、価値観、肌の色等、全てが異なります。しかし、私達の「生命」は、多くの生命との繋がりをもって生かされているのです。ですから、他を滅ぼす道は己を滅ぼす道であつて、他を生かす道こそが己の生かされる道である事を決して忘れてはなりません。仏教は私達に他を敬い、互いの存在を理解するよう努めることで、全ての者と共存する尊い世界があるといふことを気付かせて下さる智慧の教えです。

最後に、先のプラハでの核兵器廃絶を呼びかけたオバマ大統領の高尚な見識に深甚なる敬意を表すると共に、核兵器廃絶と世界平和の実現に向けて、長年に亘り力下されている手の方々に心より感謝を申し上げ、原爆犠牲者並びに、先の大戦で亡くなられた全ての犠牲者に哀悼の誠を奉じます。

合掌

理事会レポート

八月十二日(木曜日)に仏教会に於いて理事会が開催され、次のことが協議されました。

- 一、企画運営委員会は引き続き、毎月第一水曜日に会議を開きます。会員の方はこなでも歓迎致します。次回の会議は、九月一日(水)午後七時にカイファレンスルームにて開かれます。会議では、先月の毎朝り大会の反省会を含め、来月の食と言葉の祭典について話し合われます。
- 二、十月二日(日)に開催される食と言葉の祭典の

共同委員長に、リー・ルアン夫人、木下安子夫人、川崎ミルトレット夫人が務めて下さいます。委員会は、この度の祭典に手芸売り場を設けるかどうかを検討しています。

三、理事會は、事務所秘書の休暇の間、臨時秘書を務めて下さるハイディング・ネイサン氏に時間給の支払いを正式に許可致しました。

四、九月十九日(日)に秋の彼岸会法要と敬老昼食会が開かれる予定です。尚、敬老会の準備等に関するガイドブックは昨年と同様となっています。

五、十月の祥月法要は、向崎先生の長期休暇の都合により、十月十七日(日)に行われます。先生の休暇は九月二十二日(水)から十月十三日(水)までとなっています。

六、九月のビュッテ食会は二十五日(土)の午後四時半から六時まで開かれます。夕食会の献立は、ミートロフ(ハッシュ)です。共同委員長は、ディグ・ジョナス夫人、安部バリー夫人、井上ジエ夫人が務めて下さいます。

七、損害保険は、会館とサンガホルの設備が良好の為、再評価に反映して、年間の掛け金が二千年年度よりも減額されます。お内陣と仏具に関しても適切で十分な保険を保証して下さる為、再調査してまいります。

八、ビュッテ食会と九月の南部教区仏教青少年大会を共同主催する青少年会から、理事會と仏教会会員に大会日の夕食とおもてなしの準備に協力を頂けると依頼がありました。

九、太鼓グループは、日本友好庭園が開かれる八月お

相田みつをの世界

「やわらかいころ」

木の芽がのびるのは
やわらかいから
若葉がひろがるのは
やわらかいから

かすかな風にも
竹がそよぐのは
竹がやわらかいから

年を取って困るのは
足腰ばかりではなくて
頭が固くなること
心が固くなること

やわらかいころを
持たないものです
いつまでもこの若さを
保つために――

なもあみだぶつ

南無阿弥陀仏

リンで行われます。軽食の当番はブルフと
なっています。

十月の祥月法要について

十月の祥月法要は十月十七日(日)に行われます。
毎年十月は第一週に食と音楽の祭典、第二週に
祥月法要となっていました。今年も向嶋先生が
長期休暇で不在のため第三週へと変更になりました。
先月十月十二日(水)に日本から帰国しました。
会員の皆様にはいそぎをおかけしております。お話し
申し上げます。

緊急連絡先のお知らせ

向嶋先生は九月二十一日(水)より十月十三日
(水)まで休暇のため日本に帰国されます。先生不在
中の緊急連絡先は、仏教会事務所、もしくは、本田
ミレ氏(6-6) 0000-0000-0000 になります。尚
事務所は日曜日も休みです。

以上

日曜対して演義を準備する招待状を受け取りま
した。
先月の手帳(毎法要で一人五百ドルの奨学金が九名
の大学生に送られました。

ABAレポート

八月七日(土)のハイランド・カントリー朝食会議がよい
ました。会議は二名のほか出席し有意義な時間を
過ごしました。
かられた市が八月十四日(土)と十五日(日)にいま
した。お手伝い下さった会員の皆様有難うございました。
八月二十九日(日)、午後五時より、柳原トム夫妻で
バーベキュー夕食会が開かれます。川本王氏が夕食会
の招きを役所から送ります。
次回の朝食会議は十月二日(土)午前九時より、チムラ
ヒタのジミース・レストランで開かれます。会議への参加
を予定されている方は、担当の寺田氏とご連絡下さい。
ふじんかこ

婦人会レポート

八月の会議はよいものでした。
ワグ・マイ・ダンスの結婚おめでとうでした。
どなたもよいお祭りもよいお祭りでした。
八月十八日(日)の仏具のお祭りもよいお祭りでした。
の祭りに参加して下さい。
八月三十一日(土)の会議は大会でもお祭りでした。
カネの祭りに参加して下さい。
次回の会議は九月十二日(日)、正午から午後二時まで

* 仏教会の通訳・通達・連絡先は向嶋先生です。

仏教会事務局(川口) 電話(6-6) 0000-0000

0000-0000

* サニエール仏教会のメールアドレス――

info@bisdnet

* 向嶋裕田先生のメールアドレス――

yusui_mukojima@bisdnet